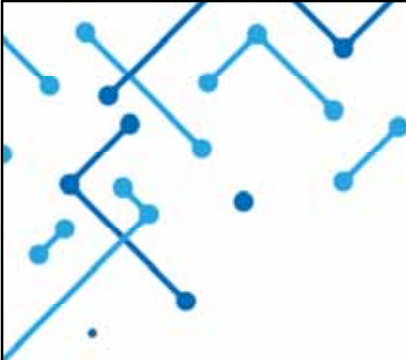




2020年度 決算説明資料

— 2020年1月～12月 —

CAC 株式会社 CAC Holdings





目次

1. 2020年度 決算概況
2. 中期経営戦略（2018年度～2021年度）進捗状況
3. 2021年度の取組みと業績予想
4. 参考データ

ご参考：2020年度下期 主要ニュース

2020年度 決算概況

連結業績概況

セグメント別売上高・利益

セグメント別受注高・受注残高

セグメント別概況

連結業績概況

単位：百万円

	2019年度	2020年度	前年度比		2020年度 業績予想	対業績予想 達成率
			増減額	増減率		
売上高	50,683	48,539	▲2,143	▲4.2%	52,000	93.3%
売上総利益	10,558	10,748	+190	+1.8%	-	-
(対売上比)	20.8%	22.1%	1.3pt	-	-	-
販管費	9,243	8,799	▲443	▲4.8%	-	-
営業利益	1,314	1,948	+634	+48.2%	2,000	97.4%
(対売上比)	2.6%	4.0%	1.4pt	-	3.8%	-
経常利益	1,257	1,909	+651	+51.8%	1,900	100.5%
(対売上比)	2.5%	3.9%	1.5pt	-	3.7%	-
特別利益	5,300	1,067	▲4,232	▲79.9%	-	-
特別損失	3,199	277	▲2,921	▲91.3%	-	-
当期純利益	1,500	1,669	+169	+11.3%	1,400	119.2%
(対売上比)	3.0%	3.4%	0.5pt	-	2.7%	-
受注高	50,799	48,195	▲2,603	▲5.1%	-	-
受注残高	16,840	16,496	▲343	▲2.0%	-	-

注）当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益

※2020年2月14日発表

前年度比概況

売上高
：新規連結寄与もCRO子会社や
インド子会社での減収により減少

営業利益
：国内システム開発案件が堅調だった
こと、新規連結寄与等により増益

特別利益：投資有価証券売却益の減少

特別損失：減損損失や関係会社事業損失
引当金繰入額等の減少

受注高：売上と同様に減少

受注残高：前年度並み

業績予想との比較

新型コロナウイルスの影響もあり、セグメントでは
売上高、利益ともに期初見通しとは異なる
結果となったが、連結全体では概ね予想
どおりの着地

■前年対比

【売上高】

新規子会社（インドネシア子会社Mitrais）連結の寄与があったものの、
インド子会社での新型コロナウイルスの影響および大型案件の反動減、
CRO事業の不振等で減収

【営業利益】

減収の影響があったものの、新規連結や国内ITの堅調な推移により増益

【特別利益】

投資有価証券売却益が減少

【特別損失】

減損損失や関係会社事業損失引当金繰入額等が減少

【受注高・受注残高】

受注高は、売上高と同様に減少、受注残高は前年並み

■業績予想との比較

新型コロナウイルスの影響もあり、セグメント内では期初の見通しと異なるものの、
連結全体では概ね予想どおりの結果となった

セグメント別売上高・利益

売上高				単位：百万円			
	2019年度		2020年度		前年度比		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
国内IT	31,653	62.5%	31,852	65.6%	+198	+0.6%	
海外IT	10,461	20.6%	9,865	20.3%	▲595	▲5.7%	
CRO	8,568	16.9%	6,820	14.1%	▲1,747	▲20.4%	
合計	50,683	100.0%	48,539	100.0%	▲2,143	▲4.2%	

セグメント利益							
	2019年度		2020年度		前年度比		
	金額	利益率	金額	利益率	金額	増減率	
国内IT	1,509	4.8%	1,856	5.8%	+347	+23.0%	
海外IT	84	0.8%	445	4.5%	+361	+427.0%	
CRO	▲278	-	▲353	-	▲74	-	
合計	1,314	2.6%	1,948	4.0%	+634	+48.2%	

※当連結会計年度より、報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、国内ITセグメントと海外ITセグメント間におけるオフショア事業に係るセグメント利益又は損失の測定方法を変更しています。
 なお、前年度のセグメント情報は、変更後の方法で作成しています。

【売上高】

CROが大幅に減収したため、国内ITの構成比が増加

【セグメント損益】

国内ITは堅調に推移し、海外ITについても採算が良くなった一方、CROは構造改革したにもかかわらず減収が影響して赤字拡大する結果となった。

➡セグメント別の状況については別ページにて詳しく



セグメント別受注高・受注残高

受注高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	32,332	63.7%	32,090	66.6%	▲242	▲0.7%
海外IT	10,060	19.8%	9,312	19.3%	▲748	▲7.4%
CRO	8,406	16.5%	6,793	14.1%	▲1,612	▲19.2%
合 計	50,799	100.0%	48,195	100.0%	▲2,603	▲5.1%

受注残高

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	7,385	43.8%	7,622	46.2%	+237	+3.2%
海外IT	3,548	21.1%	2,994	18.2%	▲553	▲15.6%
CRO	5,906	35.1%	5,879	35.6%	▲27	▲0.5%
合 計	16,840	100.0%	16,496	100.0%	▲343	▲2.0%



【受注高】

売上高と同じように推移、CROが大きく減少

【受注残高】

海外IT以外は前年度と同様の水準、構成比の変化は無

セグメント別概況 国内IT事業

単位：百万円

	2019年度	2020年度	増減	
受注高	32,332	32,090	▲242	▲0.7%
売上高	31,653	31,852	+198	+0.6%
セグメント利益	1,509	1,856	+347	+23.0%
利益率	4.8%	5.8%	1.1%	
受注残高	7,385	7,622	+237	+3.2%

概況

- 受注高、売上高は、前年度並みに推移
- システム開発案件が堅調に進捗したため、利益増
- 受注残高は売上高を牽引した金融向けが減少も、他業種での大型案件等もあり前年度並みに

詳細は
4. 参考データをご確認ください

国内ITの状況

【受注高・売上高】

金融向けの案件が好調だったが、製造業の顧客が減少したため前年度並みの推移

【セグメント利益】

増収に加えて高収益のシステム開発案件が堅調に推移し増益となった

【受注残高】

前年度、金融向け案件がピークを迎え減少したが、製薬やサービス業向けの新規案件が積み重なり微増となった

セグメント別概況 海外IT事業

単位：百万円

	2019年度	2020年度	増減	
受注高	10,060	9,312	▲748	▲7.4%
売上高	10,461	9,865	▲595	▲5.7%
セグメント利益	84	445	+361	+427.0%
利益率	0.8%	4.5%		
受注残高	3,548	2,994	▲553	▲15.6%

概況

- 受注高、売上高は、インドネシア子会社の新規連結寄与があったものの、インド子会社での新型コロナ影響等による減少が響いた
- 減収の影響があったものの、利益は新規連結寄与により大幅増
- 新型コロナ影響からの回復途中のため、受注残高も減少

詳細は
4. 参考データをご確認ください

海外ITの状況

【受注高・売上高】

インドネシア子会社の新規連結寄与があったものの、インド子会社での新型コロナ影響等による減少が響いて減収となった

【セグメント利益】

減収の影響があったものの利益は新規連結寄与が大きく、インド子会社（ISL）は微減にとどまったことから大幅増

【受注残高】

インド子会社が回復せず、またインドネシア子会社も増加しなかったことから減少

セグメント別概況 CRO事業

単位：百万円

	2019年度	2020年度	増減	
受注高	8,406	6,793	▲1,612	▲ 19.2%
売上高	8,568	6,820	▲1,747	▲ 20.4%
セグメント利益	▲278	▲353	▲74	-
利益率	-	-	-	-
受注残高	5,906	5,879	▲27	▲ 0.5%

概況

- 受注高・売上高は主要顧客からの減少に加え、新型コロナ拡大による一部案件の延期や中止もあり、大幅減少
- 構造改革でコスト削減を推し進めたが、減収の影響が大きく、セグメント赤字が拡大
- 受注残高は前年度並みであるものの、大型案件の受注見込みもあり、回復の兆し

詳細は
4. 参考データを
ご覧ください

CROの状況

【受注高・売上高】

主要顧客からの減少に加え、新型コロナ拡大による一部案件の延期や中止もあり、大幅減少

【セグメント利益】

構造改革でコスト削減を推し進め、販管費を3割程度圧縮したが、減収の影響が大きく、セグメント赤字が拡大

【受注残高】

前年度並みであるものの、大型案件の受注見込みもあり、回復の兆し

中期経営戦略（2018年度～2021年度）
進捗状況



中期経営戦略（Determination21）

デジタルトランスフォーメーション（DX）に 対応できる企業グループへ

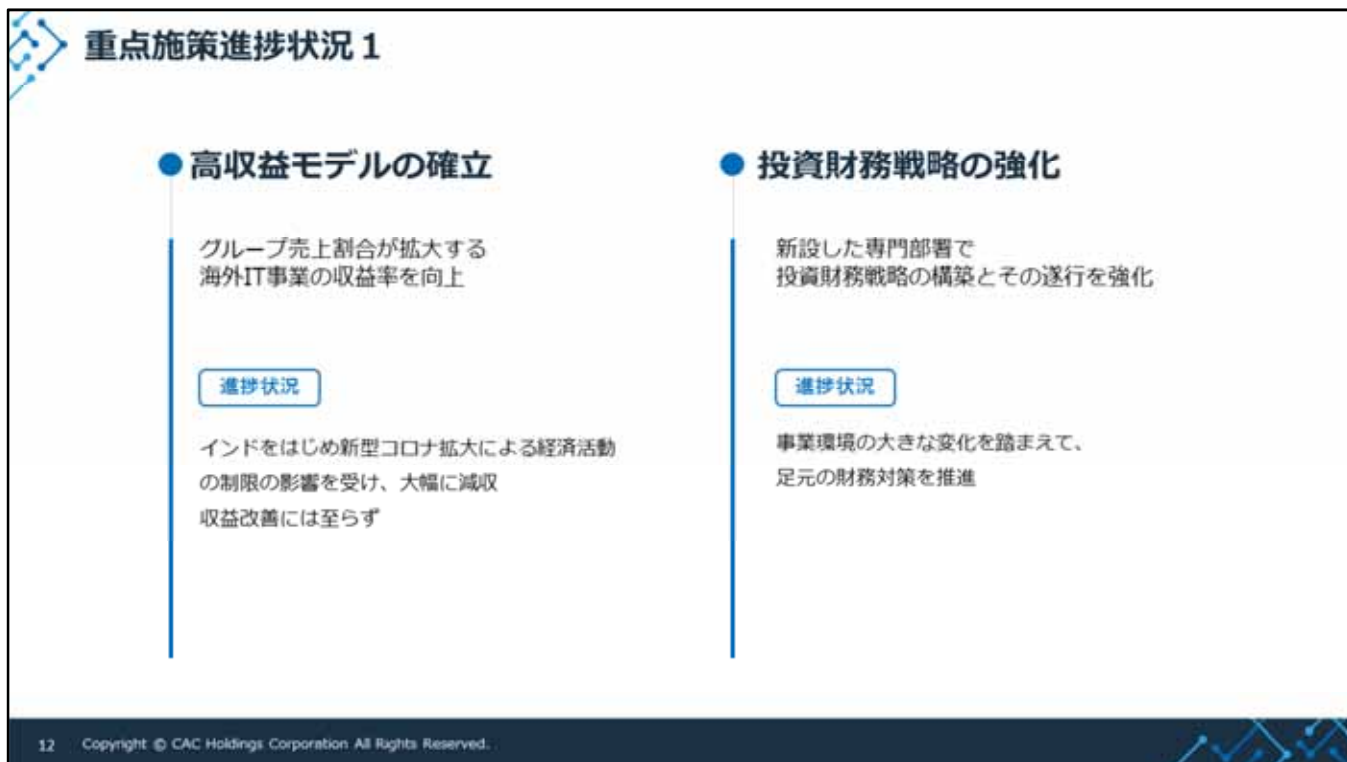


中期経営戦略について

前年度の通期決算発表の際に、基本方針は変わらず継続しつつ、2020年度より2021年度までの残り2年間は、以下3つのポイントを注力ポイントとして取り組む旨、お伝えした。

- 高収益モデルの確立
- 投資財務戦略の強化
- DX対応の強力推進

上記3点について進捗状況を次ページ以降取り上げる。



注力ポイントの進捗については以下の通り

【高収益モデルの確立】

特に海外IT事業の収益率向上を目指していたが、インド子会社が新型コロナの影響でロックダウンが長期化し、その制約を受けて大幅に減収した。したがって海外ITについては収益改善には至らず進捗は進んでいない。

【投資財務戦略の強化】

前年度は新型コロナの影響を受けて、事業環境・投資環境の不透明感が強かったことから、足元の財務対策を推進した。当初の目論見とは若干異なるが、守りのサイドを固めているという形で進捗した。



重点施策進捗状況 2

● DX対応の強力推進

DX時代に適切なサービスを提供し、お客様のDXニーズをとらえる

進捗状況

国内IT事業を中心に、DX対応に積極的に取り組む

グループにおけるデジタル案件の売上高比率

2019年度実績



2020年度実績



【DX対応の強力推進】

国内ITを中心に、DX対応に積極的に取り組んでいる。グループ全体におけるデジタル案件の比率が、2019年の22%に対し、2020年は36%と進捗している。ほぼ想定通りの進捗となっている。



セグメント別進捗状況



国内IT事業

- 新型コロナにより一部顧客にてIT投資控え発生も、2020年度下期以降回復
- 金融大型案件を含め既存顧客ニーズを取り込み
- DX対応なども積極的に推進



海外IT事業

- 中核インド子会社において新型コロナ拡大による経済活動制限、その後の競争激化によって売上高大幅減少、収益改善に至らず
- インドネシア子会社と国内子会社でのアジャイル開発適用に向けてノウハウ共有など実施



CRO事業

- 新型コロナ拡大により治験の症例受領数減少や中断、延期等が発生
- 構造改革による固定費削減等の成果はあったものの、主要顧客向けの減収が大きく響く



セグメント別の進捗状況、先に説明した内容と重複するため割愛



目標数値進捗状況

単位：百万円

	19年度実績	20年度予想	20年度実績	達成率
売上高	50,683	52,000	48,539	93.3%
国内IT	31,653	32,000	31,852	99.5%
海外IT	10,461	13,000	9,865	75.9%
CRO	8,568	7,000	6,820	97.4%
営業利益	1,314	2,000	1,948	97.4%
国内IT	1,509	1,400	1,856	132.6%
海外IT	84	500	445	89.0%
CRO	▲278	100	▲353	—
ROE	5.6%	6.0%	6.6%	110%



目標値と実績の進捗は次の通り

【売上高】

進捗率93.3%

【営業利益】

進捗率97.4%

CROは未達だが、国内ITが堅調に推移したことから、公表値に近い着地となった。

【ROE】

進捗率110%

2021年度の取組みと業績予想

中期経営戦略 最終年度としての取組み

● DXの強力推進

- ウィズコロナ・アフターコロナに対応したデジタルソリューションの開発・販売
- アジャイル開発の国内案件適用

グループにおけるデジタル案件の売上高比率

2020年度実績



2021年度目標



● 高収益モデルの確立

- 海外IT事業にて、市場環境の回復を捉えて売上回復を狙い、収益回復へ
- グループ一体で取り組むグローバル案件の獲得増加を目指す

先ほどお話した注力ポイントを継続して取り組んでいく。

【DXの協力推進】

グループにおけるデジタル比率を36%から、今年は50%を目指す。

内容は、デジタルソリューションの開発・販売、特にAIを活用したリモートワークソリューションや感情認識等を含めたソリューションの開発・販売に力を入れる。

アジャイル開発はMitraisのノウハウを国内に持ち込んで、今年は実際に国内の案件に適用することを目指している。

【高収益モデルの確立】

進捗しなかった海外ITの市場の回復を待って、回復基調を捉えながら売上高に繋げ、収益の回復を目指す。

グループ全体でグローバル案件の獲得増加を目指すことで高収益モデルの確立に繋げる。

2021年受注環境予想と取組み



国内IT事業

- IT投資は前年度同様、堅調に推移すると予想
- 連結範囲からの除外（1社）による業績影響があるも、利益は前年度並みの確保に努める



海外IT事業

- インド：不透明な状況継続も、回復基調を捉えて売上げにつなげる
- インドネシア：炭鉱業向けパッケージ販売での減少見込みがあるものの、新型コロナ影響の少ないオーストラリアなどで案件獲得を目指す
- 中国：新型コロナの影響はほぼなし、2020年度並みで予想
- 欧米：顧客企業のIT投資意欲は継続と予想。グループを挙げてグローバル案件の増加を目指す



CRO事業

- 受注環境は徐々に回復の兆し、大型案件の受注見込みもあり
- 引き続き事業構造改革を推進しつつ、受注拡大に努める

【国内IT事業】

前年度に引き続き堅調に推移すると予測している。

連結対象から子会社が1社外れた。業績に影響がでるが、売上高はそれを補った上で若干未達になるが、利益は前年度並みに確保するよう努める。

連結除外の影響額：売上高20億、営業利益1億程度

【海外IT事業】

インドは不透明な状況が継続しているが、インド経済の回復が予想されており、この回復基調を捉えて売上に繋げる機会としていく。

インドネシアは、昨年切り離した炭鉱事業向けパッケージ販売の減少が見込まれるが、新型コロナの影響が少ない既存市場のオーストラリアなどで案件獲得を目指していく。

中国は新型コロナの影響はほとんどなく、昨年度並みと予想している。

欧米では顧客企業（日系）のIT投資意欲は継続していくと予想しており、グループを挙げてグローバル案件の増加を目指す。

【CRO事業】

受注環境は徐々に回復の兆し、確度の高い大型案件の受注見込みもあり、これを捉えてきちんと数値化していく。また引き続き事業構造改革を推進しつつ、受注拡大に努めていく。

2021年度 連結目標数値（セグメント別）

売上高

単位：百万円

	2020年度		2021年度予想		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	31,852	65.6%	31,500	61.8%	▲352	▲ 1.1%
海外IT	9,865	20.3%	11,000	21.6%	+1,134	+11.5%
CRO	6,820	14.1%	8,500	16.7%	+1,679	+24.6%
合計	48,539	100.0%	51,000	100.0%	+2,460	+5.1%

セグメント利益

	2020年度		2021年度予想		前年度比	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	増減率
国内IT	1,856	5.8%	1,900	6.0%	+43	+2.3%
海外IT	445	4.5%	450	4.1%	+4	+0.9%
CRO	▲353	-	250	2.9%	+603	-
合計	1,948	4.0%	2,600	5.1%	+651	+33.4%

【売上高】

国内ITは、連結除外の影響で未達になる
海外IT事業、CRO事業はともに増加を目指している

【セグメント利益】

売上の増加に伴って増える想定だが、海外ITの利益は利益率の低いインドの売上増加分が大きいことと、インドネシアが利益微減の見込みであることからほぼ横ばいの見通し。



2021年度 通期業績予想

- CRO事業と海外IT事業（インド）の回復で、前年度比増収増益を見込む
- 株主還元の強化方針は継続するも財務の健全性を鑑み、配当は前年度と同額を予定

単位：百万円

	2020年度 実績	2021年度 予想	前年増比
売上高	48,539	51,000	+5.1%
営業利益	1,948	2,600	+33.4%
(対売上比)	4.0%	5.1%	
経常利益	1,909	2,500	+30.9%
(対売上比)	3.9%	4.9%	
当期純利益	1,669	1,700	+1.8%
(対売上比)	3.4%	3.3%	
配当	60円	60円	0円



【通期業績の予想】

業績予想の達成を目指す

配当については、株主還元の強化方針は継続するが、財務の健全性を鑑みて前年度と同額を予定している。



中期経営戦略 2021年度数値目標の変更

	変更前	変更後
売上高	55,000	51,000
国内IT	33,000	31,500
海外IT	14,000	11,000
CRO	8,000	8,500
営業利益	3,000	2,600
国内IT	1,700	1,900
海外IT	800	450
CRO	500	250
ROE	8%	7%

単位：百万円



中計の最終年度となるため、売上高、営業利益とも業績予想に伴い、修正ROEもそれに伴って設定

参考データ

業種区分の変更概要

業種別受注高・売上高

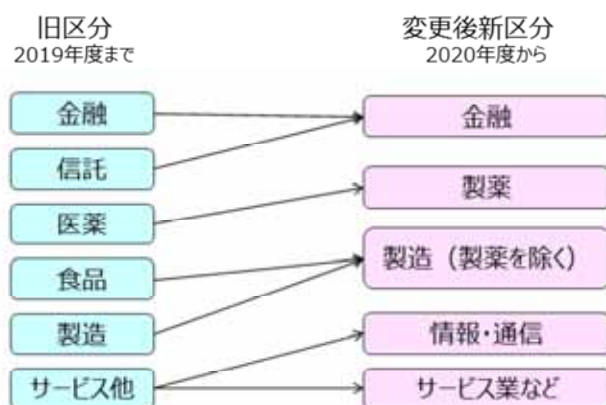
セグメント別業種別受注高・売上高

旧区分業種別受注高・売上高



業種別区分の変更概要

- ✓ 2020年度第1四半期より昨今のビジネス形態の変化に伴い、業種別の区分を以下の区分に変更
 - ✓ 参考データとして、2020年度は参考資料として旧区分のデータも継続開示予定
- また、第2四半期および通期決算では、セグメント別データを業種別に区分したデータを開示





業種別受注高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	12,009	23.6%	12,781	26.5%	+771	+6.4%
製薬	13,541	26.7%	11,770	24.4%	▲1,771	▲ 13.1%
製造	7,407	14.6%	6,818	14.2%	▲588	▲ 7.9%
情報・通信	6,305	12.4%	5,354	11.1%	▲950	▲ 15.1%
サービス業など	11,536	22.7%	11,471	23.8%	▲65	▲ 0.6%
合 計	50,799	100.0%	48,195	100.0%	▲2,603	▲ 5.1%





業種別売上高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	11,245	22.2%	13,086	27.0%	+1,841	+16.4%
製薬	13,349	26.3%	11,680	24.1%	▲1,669	▲ 12.5%
製造	7,239	14.3%	7,140	14.7%	▲99	▲ 1.4%
情報・通信	5,879	11.6%	5,451	11.2%	▲428	▲ 7.3%
サービス業など	12,969	25.6%	11,180	23.0%	▲1,788	▲ 13.8%
合計	50,683	100.0%	48,539	100.0%	▲2,143	▲ 4.2%





セグメント別業種別 受注高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	32,332	63.7%	32,090	66.6%	▲242	▲0.7%
金融	9,212	18.1%	9,939	20.6%	+727	+7.9%
製薬	5,110	10.1%	5,231	10.9%	+121	+2.4%
製造	6,116	12.1%	5,388	11.2%	▲727	▲11.9%
情報・通信	3,100	6.1%	2,739	5.7%	▲360	▲11.6%
サービス業など	8,793	17.3%	8,790	18.2%	▲3	▲0.0%
海外IT	10,060	19.8%	9,312	19.3%	▲748	▲7.4%
金融	2,797	5.5%	2,841	5.9%	+43	+1.6%
製薬	345	0.7%	324	0.7%	▲21	▲6.3%
製造	1,258	2.5%	1,393	2.9%	+135	+10.8%
情報・通信	3,151	6.2%	2,562	5.3%	▲589	▲18.7%
サービス業など	2,507	4.9%	2,189	4.5%	▲317	▲12.7%
CRO	8,406	16.5%	6,793	14.1%	▲1,612	▲19.2%
製薬	8,085	15.9%	6,214	12.9%	▲1,870	▲23.1%
製造	32	0.1%	35	0.1%	+2	+8.6%
情報・通信	52	0.1%	51	0.1%	+0	▲1.3%
サービス業など	235	0.5%	491	1.0%	+255	+108.5%
合計	50,799	100.0%	48,195	100.0%	▲2,603	▲5.1%





セグメント別業種別 売上高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年対比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	31,653	62.5%	31,852	65.6%	+198	+0.6%
金融	8,605	17.0%	10,106	20.8%	+1,500	+17.4%
製薬	4,952	9.8%	4,778	9.8%	▲174	▲3.5%
製造	6,077	12.0%	5,531	11.4%	▲545	▲9.0%
情報・通信	3,080	6.1%	2,934	6.1%	▲145	▲4.7%
サービス業など	8,937	17.6%	8,502	17.5%	▲435	▲4.9%
海外IT	10,461	20.6%	9,865	20.3%	▲595	▲5.7%
金融	2,639	5.2%	2,980	6.1%	+340	+12.9%
製薬	329	0.6%	338	0.7%	+8	+2.7%
製造	1,127	2.2%	1,581	3.3%	+454	+40.3%
情報・通信	2,728	5.4%	2,466	5.1%	▲261	▲9.6%
サービス業など	3,636	7.2%	2,499	5.1%	▲1,137	▲31.3%
CRO	8,568	16.9%	6,820	14.1%	▲1,747	▲20.4%
製薬	8,067	15.9%	6,563	13.5%	▲1,503	▲18.6%
製造	35	0.1%	27	0.1%	▲7	▲22.6%
情報・通信	70	0.1%	50	0.1%	▲20	▲28.8%
サービス業など	394	0.8%	179	0.4%	▲215	▲54.5%
合計	50,683	100.0%	48,539	100.0%	▲2,143	▲4.2%





旧区分 業種別受注高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	5,811	11.4%	5,984	12.4%	+172	+3.0%
信託	6,198	12.2%	6,796	14.1%	+598	+9.7%
医薬	14,156	27.9%	12,877	26.7%	▲1,279	▲9.0%
食品	2,903	5.7%	2,597	5.4%	▲306	▲10.5%
製造	4,555	9.0%	4,067	8.5%	▲488	▲10.7%
サービス他	17,173	33.8%	15,871	32.9%	▲1,301	▲7.6%
合 計	50,799	100.0%	48,195	100.0%	▲2,603	▲5.1%





旧区分 業種別売上高

単位：百万円

	2019年度		2020年度		前年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	5,621	11.2%	6,211	12.8%	+589	+10.5%
信託	5,623	11.1%	6,875	14.2%	+1,251	+22.3%
医薬	14,190	28.0%	12,520	25.8%	▲1,670	▲11.8%
食品	2,956	5.8%	2,708	5.6%	▲247	▲8.4%
製造	4,280	8.4%	4,286	8.8%	+5	+0.1%
サービス ^他	18,010	35.5%	15,937	32.8%	▲2,072	▲11.5%
合計	50,683	100.0%	48,539	100.0%	▲2,143	▲4.2%





ご参考：

2020年度下期 主要ニュース



参考：主要ニュース(1/3)

2020/7/6	CAC、AWS導入・活用サービス「DBマイグレーションサービス」のメニューを拡充 CACは、企業のアマゾン ウェブ サービス (AWS) 導入と活用を支援するクラウドサービス「enterpriseCloud+」の「DBマイグレーションサービス」のメニューを拡充し、DBアセスメントメニューを追加。これにより企業のインフラ担当者はDB移行検討の初期段階でDB移行と運用のコストや課題を早期に把握し、より効率的なDB移行検討が可能になる。
2020/7/28	CAC、RPAワンストップサービスのリモート版を提供開始 CACは、企業のRPA導入や開発、保守、そして活用を支援する「CAC RPAワンストップサービス」リモート版の提供を開始。本サービスでは、オンライン会議やリモート接続により、RPAの導入、開発、保守、トレーニングのサポートをすべてリモートで利用することができる。利用費用は1時間単位の時間制のため、必要に応じた無駄のない、効率的なRPAへの投資が可能となる。
2020/8/6	CAC、ポストコロナ時代の製薬企業の情報提供活動を支援するシステム「Promotion Mail」を提供開始 CACは、製薬企業向け統合営業支援ソリューションの新システムとして、製薬企業の監督部門で承認されたコンテンツを医療従事者が求めるタイミングで提供できる「Promotion Mail」を開発、2020年9月1日より提供開始。
2020/8/28	CACクロアとMICIN、国内初のオンライン診療機能を搭載したバーチャル 臨床試験システム「MiROHA」を活用した臨床試験業務の受託を開始 CACクロアとMICIN（マイシン）は、MICINが開発したビデオ通話機能等でオンライン診療を行うバーチャル臨床試験システム「MiROHA（ミロハ）」の臨床試験・臨床研究等の医薬品開発への活用拡大を目指し、バーチャル臨床試験・臨床研究の周辺業務の受託を開始。バーチャル臨床試験の活用を拡大し、COVID-19等の感染症リスクから被験者や医療従事者を守るとともに、一日でも早く治療薬を患者に届けるための環境づくりを推進。





参考：主要ニュース(2/3)

2020/9/18	凸版印刷・シスコ・CAC、高校生フェンシング大会「High School Japan Cup 2020」の会場内の安全対策やリモート観戦システムなどをサポート CACは、凸版印刷、シスコシステムズと、高校生のフェンシングオープン大会「High School Japan Cup 2020」で、会場内の安全対策やリモート観戦等のサポートを実施。特に視聴者の表情やジェスチャーをAIで把握・解析し、データを数値やアイコンで出力してリモート観戦システム上に表示できるアプリとその技術サポートの提供を担当。
2020/9/30	CAC、長崎拠点で金融機関向けシステム開発サービスを提供開始 CACは、長崎拠点にて2020年12月の金融向けシステム開発サービス開始に向け、県内での人材雇用、現地IT企業との協業受け入れを開始。長崎拠点の事業拡充は同県の経済活性化のほか、CACの事業継続性確保やリスクの分散・低減を可能にする。
2020/10/22	CAC、AIでWeb会議のコミュニケーションを円滑化する「心sensor for Communication」を提供開始 CACは、Web会議でのコミュニケーションを円滑化する「心sensor for Communication」を提供開始。カメラで撮影した画像から会議参加者の反応や感情を画像認識AIで読み取って可視化する。オンラインコミュニケーションにおける参加者の反応を可視化できるため、Web会議にとどまらず、授業やライブ鑑賞、スポーツ観戦等、様々な分野のオンライン配信で活用が可能。
2020/10/30	CACクロアとアガサが 治験・臨床研究のデジタル化を再加速 CACクロアとアガサは、両社の持つ文書管理システム“Agatha”と申請関連文書作成支援ツール“SWIFTeS”を連携。治験や臨床研修のデジタル化や申請業務の信頼性の確保、業務の効率化を実現する。





参考：主要ニュース(3/3)

2020/11/4	CACクロア、株式会社2.1と製薬会社向けのマニュアル作成で協業 CACクロアは、マニュアル導入支援の株式会社2.1と製薬会社向けのSOPや業務マニュアル作成のオプションサービス提供で協業し、サービスを提供する。リモートで業務を進める際に発生するコミュニケーションの限界や、退職にともなうベテランのノウハウの損失などといった様々な課題を株式会社2.1とのマニュアル作成で解決。社員の成長を支援し、働きやすい職場づくりなど、製薬会社の働き方改革に貢献する。
2020/11/17	国内初！CACクロアの「QualityLead」で化合物共有がスタート！ CACクロアが実施する化合物共有ライブラリー事業が2021年4月に開始。田辺三菱製薬、塩野義製薬、エーザイ3社との契約を締結。製薬会社の化合物ライブラリーを継続的に共有・相互利用する事業を民間企業が実施するのは国内では初。日本発の革新的医薬品開発を加速させる。
2020/12/17	CACグループ、障害者スポーツボッチャの普及・支援で5年連続「東京都スポーツ推進企業」に認定 CAC Holdingsは、東京都オリンピック・パラリンピック準備局が実施する「東京都スポーツ推進企業認定制度」において、「令和2年度東京都スポーツ推進企業」として認定を受けた。グループ各社とともに取り組む障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・支援の活動が評価される。
2021/1/7	CACクロアがVeeva CROパートナープログラムに参加 CACクロアはVeeva Japan が提供する、Veeva CRO Partner Program for Clinical Data Managementへ参加。これにより、取り扱うEDC製品が拡充され、製薬会社に多様な選択肢を提供できるようになるとともに、臨床試験の効率化と、かかる時間やコスト削減の実現を目指す。





お問合せ先

経営企画部 Enterprise Value Upグループ
TEL : 03-6667-8010 E-mail : prir@cac.co.jp
<https://www.cac-holdings.com/>

CAC 株式会社 CAC Holdings